

算数・数学分科会 エデュスクラムの活用における成果と課題

	成果	課題
課題設定	<p>円と正方形の場合の土地の形と道の面積を求め、その関係を確認した後、「自分たちで土地の形や道の形を決め、その関係が $S=al$ になっているかどうかを証明し、説明する」ことを課題とした。</p> <p>課題設定の仕方によって、自分たちの「～してみたい」が実現可能である。</p>	<p>自分たちで課題設定を行うと、児童生徒は面白さを感じるが、求められなかったり、学習を生かすことができなかつたりすることがある。その場合、教員の介入が必要である。ヒントとなる部分を提示すれば、その後は児童生徒のみで学習が進められそうである。</p>
フリップやアイテム完成の定義	<p>完成の定義は、「班員が説明を聞いて納得できるか」と設定した。最後の発表では、別の班員に説明する形式をとるため、まずは自分たちの班の班員に伝わるように準備をする必要がある。全員が説明できるようにならないと、グループで教え合う姿が見られた。</p>	<p>班の中で、同一の課題に取り組んでいたため、アイテムを出す必要性がなかった。</p>
ブック	<p>ブックを3種類用意し、自分の学習状況に応じて難易度を選択できるようにした。自分に合ったBookを選択しようとする姿が見られた。</p>	<p>ブックを活用してほしいが、教員や友達に聞いて解決しようとする姿が多く見られた。活用のさせ方に工夫が必要である。</p>
協働的な関わりを促す手だて	<p>意図的なグループ編成を行った。相談しながら課題を進めたり、解き方を理解した生徒が教えたりする姿が多く見られた。</p> <p>別の班員に説明する形式をとったため、全員が説明できるようにならないと、グループで教え合う姿が見られた。</p>	<p>班員ではなく、教員を頼ってしまう場面が見られた。一人でも課題解決ができると対話が生まれるが、そうなるまでに時間を要した。</p>
授業実践で明らかになったこと	<p>○課題設定からすべて生徒に任せたことによって、生徒の興味・関心を引ききっかけにはなったが、解決できない課題を設定してしまう場合もあったので、教員側で設定したほうが良い部分もあった。</p> <p>○教員の介入はあったものの、1人が分かった後の共有は、班単位で行うことができていた。</p> <p>○ブックと教科書の活用方法を、日頃の授業から意識付けさせていく事で、エデュスクラムを用いた授業にも活用できると考えられる。</p> <p>○課題設定次第では、フリップやアイテムを有効に活用することも可能である。</p>	